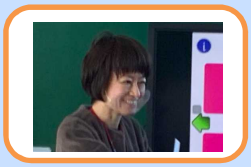
実践事例　つくばみらい市の取組　ピンポイント型

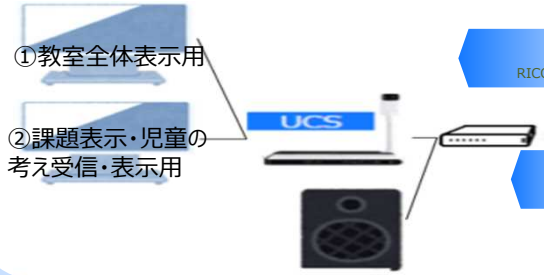
授業者，遠隔システムの状況

つくばみらい市立伊奈東小学校（配信校）

専門人材　野澤　愛　先生

- 特別免許状（小学校・中学校英語科）を授与
- 配信校の英語専科教諭として勤務
- 遠隔授業の取組２年目





テレビ会議システム
RICOH Uified Communication System

Google Workspace

つくばみらい市立伊奈東中学校第１学年（受信校）

4技能のバランスに課題が見られるが、英語が好きで活発に発言する生徒8名　アドバンスクラス

中村　雅俊　先生（技術科教諭）

遠隔教育特例校制度の活用

○通信環境が良好ではなく発話の最初が不明瞭であったり、音声が途切れ途切れになってしまっていた。

○テレビ会議システムを使用して、距離を感じさせない交流が実現できた。

授業の計画　第１学年　単元名「 Unit8 A Surprise Party 」

時	学 習 内 容	形態 対面	形態 遠隔	遠隔システムの授業における工夫や課題、解決策（1人1台端末の利活用も含む。使用OS：iPad）
1	・今何をしているのか説明しよう。/am[are,is]＋ing ○紹介したい中学校生活を決めて情報収集する。		○	○Google Classroomを使って、課題を各自の端末に送信、提示し、課題を把握することができた。 ○授業者がGoogle Jamboardで作成したワークシートを使って、児童が自分の考えを表現できた。 ○グループでGoogle Jamboardを共有して、進行形について考えを共有しながら理解を深めることができた。 ○Google Classroom機能を使って、授業者が生徒について個別指導することができた。 ○Googleのフォーム機能を使って、授業者が生徒に授業について振り返らせることができた。 ●書くことについての指導が課題。→発表した内容をワークシートに丁寧にまとめたり、書くことの言語活動を行う回数を増やしたりする。
2	・今何をしているのかたずねよう。/am[are,is]＋ing ○VR goggleジェスチャークイズをする。		○	
3	・感動をあらわそう。/How_! やWhat a _ ! ○小学生に紹介したい校内の動画を撮って説明する。		○	
4	・中学校生活について説明してみよう。 ○Keynoteなどで資料を作りながら文章を構築する。 ○グループ内で練習を録画し、自らの改善につなげる。	○		
5	・中学校生活についてオンラインで説明してみよう。 ○オンラインで伝える際の工夫点を考え、練習する。 ○小学生が理解しやすい構成や内容の伝え方について考える。		○	
6	・オンラインで中学校生活について説明しよう。 ○小学生に向けたオンラインプレゼンテーションを行う。		○	

活動の様子

Google Classroomを使用し小学生にプレゼンテーションしている場面

プレゼンテーションを聞いて、小学生が発表者に質問をしている場面

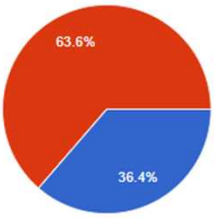
Google Jamboardを使用し進行形の文を復習している場面

アンケート結果

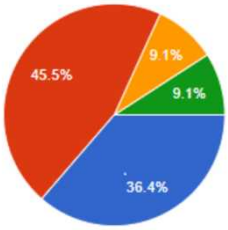
生徒

- 4 そう思う
- 3 どちらかといえばそう思う
- 2 どちらかといえばそう思わない
- 1 そう思わない

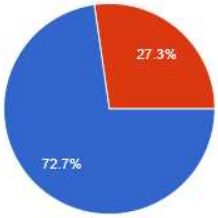
2　配信側の先生との会話はスムーズでしたか。



3　配信側の先生が教室にいて授業をしているような感じがしましたか。（臨場感）



5　考えたり、話し合ったりしながら、自分の考えを広げたり深めたりすることができましたか。



生徒の振り返り（伊奈東中学校）
　資料を使って発表できるので、わかりやすい発表ができた。　／　実際に会わなくても、コミュニケーションが取れたので良かった。　／　発表の時に音が聞こえているかが心配だったけど聞こえていたようでよかった。　／　6年生とコミニュケーションをとれたところ。／　iPadを使って自分の考えをより伝えやすくなった。
自分で考えた文章を人に伝える上でのこれからの改善点を知る事ができた。　／タブレットを使い自分の意見をスムーズに伝えることができたことです。

教員

【アンケートのコメントより】
・相手側の児童たちの様子が見やすく映っていた。
・音声が細かく途切れたり、こちらで話した音声がハウリングしてしまった場面があった。
・各プレゼンターの状況に応じて配信側から細かな指導が行われていた。
・「遠隔」の文字通り離れた相手と対面しているかのように、コミュニケーションが図れた。

アンケートや全体を通しての考察

成　果	課題　と　対応案
○ 遠隔という環境の中で、小学校と中学校の接続における好事例となった。 ○ 中学生は自分たちの力で伝えたいことをわかりやすくプレゼンテーションしようとする意欲が見られ、小学生もこれに応えようと活動し、よいコミュニケーションが図れた。 ○ 互いに日頃の授業で培った英語を用いて、中学生はプレゼンテーションを行い、小学生は質問することができた。児童生徒は達成感や自己有用感を感じ、「楽しかった」「もっと学びたい」という学習意欲の向上が見られた。	● 音声の細かな途切れやハウリング →　他のテレビ会議システムやマイク、スピーカーシステムの使用。 ●コロナ禍の中で、臨時休校になってしまったり、行事の日程が変更となったりすることがあった。こういった場合の小中学校の予定の調整や連絡調整が課題となった。 →　ICT（例えばslackなどのアプリ）を活用し、スムーズな連絡調整を図り、予定の把握に努める。